



ノウフクと新しい経済社会

(一社) 日本農福連携協会 会長理事 皆川 芳嗣
(農林中金総合研究所 理事長)

令和4年3月14日

1. ノウフクとは何か

(1) 農福連携の課題と目指す方向

- 農福連携とは、障害者等の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取組。
- 政府では、農林水産省、厚生労働省、法務省等が連携して、「農業・農村における課題」、「福祉(障害者等)における課題」、双方の課題解決と利益(メリット)があるWin-Winの取組である農福連携を推進。

「農」と福祉の連携(=農福連携)

【農業・農村の課題】

- ・農業労働力の確保
※毎年、新規就農者と同程度の基幹的農業従事者が減少
- ・荒廃農地の解消 等
※再生利用が可能な荒廃農地は全国約9万ha

【福祉(障害者等)の課題】

- ・障害者等の就労先の確保
※障害者約965万人のうち雇用施策対象となるのは約377万人、うち雇用(就労)しているのは約100万人
- ・工賃の引き上げ 等

障害者等が持てる能力を発揮し、それぞれの特性を活かした農業生産活動に参画

【農業・農村のメリット】

- ・農業労働力の確保
- ・農地の維持・拡大
- ・荒廃農地の防止
- ・地域コミュニティの維持 等

【福祉(障害者等)のメリット】

- ・障害者等の雇用の場の確保
- ・賃金(工賃)向上
- ・生きがい、リハビリ
- ・一般就労のための訓練 等



労働力の確保



新たな就労の場の確保

目指す方向

1 農業生産における障害者等の活躍の場の拡大

障害者等の雇用・就労の場の拡大を通じた農業生産の拡大。



2 農産物等の付加価値の向上

障害の特性に応じた分業体制や、丁寧な作業等の特長を活かした良質な農産物の生産とブランド化の推進。



3 農業を通じた障害者の自立支援

障害者の農業への取組による社会参加意識の向上と工賃(賃金)の上昇を通じた障害者の自立を支援。



2. ノウフクのこれまでの歩み

(1) ノウフクの始まり

～H18年
(2006)

先進的な農業経営体や福祉事業者による農業分野での障害者就労

- 先進的な農業経営体や福祉事業者により、農業分野での障害者就労の取組が始まる。
(社) 白鳩会が農業生産法人「根占生産組合」を設立〔S53〕、(株) 京丸園が障害者雇用を開始〔H8〕、(有) 岡山県農商が障害者雇用を開始〔H11〕ほか。



農場全景
(白鳩会より)

H19
(2007)

農業分野での障害者雇用の推進

- 新たな「重点施策実施5か年計画」(H19.2障害者施策推進本部決定)…農業法人等への障害者雇用の推進



ミニトマトの収穫作業
(岡山県農商より)

H23
(2011)

農業と他分野との関わりに対する支援を開始

- 農林水産省の交付金事業において、農業・農村を医療や介護の場として活用する取組を支援。

任意団体「全国農福連携推進協議会」設立(3月)。

H28
(2016)

「農福連携」の推進

- 「ニッポン一億総活躍プラン」(H28.6閣議決定)…障害者の心身にプラスの効果がある農福連携を推進
- 「経済財政運営と改革の基本方針」(H30.6閣議決定)…農福連携を含めた就労・社会生活を促進
- 「未来投資戦略2018(成長戦略)」(H30.6閣議決定)…農福連携により高齢者、障害者、生活困窮者の就労を進める
- 新たなJAS(特色JAS)の1つとして、「ノウフクJAS」が定められた(H30.12)。

国の計画に「農福連携」という言葉が用いられた。

H30
(2018)

「一般社団法人日本農福連携協会」として法人化・名称変更(11月)。

R元
(2019)

「農福連携等推進ビジョン」決定

- 農福連携を強力に推進するため、内閣官房長官を議長とし、関係各省及び有識者からなる農福連携等推進会議において、農福連携等推進ビジョンを決定(R元.6月)。関係省庁とともに実施する今後の取組が位置付けられた。

ノウフクJAS認証第1号



ノウフクJAS



農福連携等推進会議

2. ノウフクのこれまでの歩み

(2) 農福連携等推進会議

- 農福連携等について全国的な機運醸成を図り強力に推進していくため、令和元年4月に官房長官を議長とする省庁横断の「農福連携等推進会議」を設置。同年6月に開催された第2回会議において今後の推進の方向性を示した「農福連携等推進ビジョン」を決定。

構成員		有識者	
議長	内閣官房長官		
副議長	厚生労働大臣 農林水産大臣	且田 久美	株式会社九神ファームめむろ 取締役
構成員	内閣官房副長官（衆） 内閣官房副長官（参） 内閣官房副長官（事務） 内閣官房副長官補（内政担当） 内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付） 法務省矯正局長 法務省保護局長 文部科学省初等中等教育局長 厚生労働省職業安定局長 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長 農林水産省大臣官房総括審議官 農林水産省農村振興局長	小池 邦子 佐藤 康博 城島 茂 新免 修 鈴木 厚志／緑 鈴木 英敬 中村 邦子 中家 徹 皆川 芳嗣 村木 厚子	社会福祉法人花工房福社会 理事長 日本経済団体連合会 農業活性化委員長 T O K I O 山城就労支援事業所「さんさん山城」施設長 京丸園株式会社 代表取締役／総務取締役 農福連携全国都道府県ネットワーク 会長 社会福祉法人白鳩会 常務理事 全国農業協同組合中央会 会長 一般社団法人日本農福連携協会 会長 津田塾大学 客員教授
			(五十音順)

※ 「農林水産業・地域の活力創造プラン」のフォローアップ及び今後の見直し等に向け、福祉分野等との連携における農山漁村の再生に向けた取組の推進について、実効ある方策を検討するため、本会議を開催。

※ 会議の庶務は、内閣官房及び厚生労働省の協力を得て、農林水産省において処理。

2. ノウフクのこれまでの歩み

(3) 農福連携等推進ビジョンの策定(概要)

令和元年6月4日「第2回農福連携等推進会議」において決定

I 農福連携等の推進に向けて

農福連携は、農業と福祉が連携し、**障害者の農業分野での活躍**を通じて、**農業経営の発展**とともに、**障害者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現**する取組
年々高齢化している農業現場での貴重な働き手となることや、**障害者の生活の質の向上**等が期待

農福連携は、**様々な目的の下で取組が展開**されており、これらが**多様な効果を発揮**されることが求められるところ

持続的に実施されるには、**農福連携に取り組む農業経営が経済活動として発展**していくことが重要で、個々の取組が地域の農業、日本の農業・国土を支える力になることを期待

農福連携を全国的に広く展開し、裾野を広げていくには「知られていない」「踏み出しにくい」「広がっていかない」といった課題に対し、官民挙げて取組を推進していく必要

また、**ユニバーサルな取組**として、高齢者、生活困窮者等の就労・社会参画支援や犯罪・非行をした者の立ち直り支援等、様々な分野にウイングを広げ、**地域共生社会の実現**を図ることが重要（SDGsにも通じるもの）

農福連携等の推進については、引き続き、関係省庁等による連携を強化

II 農福連携を推進するためのアクション

目標：農福連携に取り組む主体を新たに3,000創出*

1 認知度の向上

- ・**定量的なデータ**を収集・解析し、農福連携の**メリット**を客観的に提示
- ・優良事例をとりまとめ、各地の様々な取組内容を**分かりやすく情報発信**
- ・**農福連携で生産された商品**の消費者向けキャンペーン等の**PR活動**
- ・農福連携マルシェなど**東京オリンピック・パラリンピック**等に合わせた**戦略的プロモーション**の実施

2 取組の促進

○ 農福連携に取り組む機会の拡大

- ・**ワンストップで相談できる窓口体制の整備** ・**スタートアップマニュアル**の作成
- ・試験的に農作業委託等を短期間行う「**お試しノウフク**」の仕組みの構築
- ・**特別支援学校**における農業実習の充実
- ・農業分野における**公的職業訓練**の推進

○ ニーズをつなぐマッチングの仕組み等の構築

- ・農業経営体と障害者就労施設等の**ニーズをマッチングする仕組み**等の構築
- ・**コーディネーター**の育成・普及
- ・**ハローワーク**等関係者における連携強化を通じた、**農業分野での障害者雇用の推進**

○ 障害者が働きやすい環境の整備と専門人材の育成

- ・農業法人等への**障害者の就職・研修等の推進**と、障害者を新たに雇用して行う**実践的な研修の推進**
- ・障害者の**作業をサポートする機械器具、スマート農業**の技術等の活用
- ・全国共通の枠組みとして**農業版ジョブコーチの仕組み**の構築
- ・農林水産研修所等による**農業版ジョブコーチ等の育成**の推進
- ・農業大学校や農業高校等において**農福連携を学ぶ取組**の推進
- ・障害者就労施設等における**工賃・賃金向上の支援の強化**

○ 農福連携に取り組む経営の発展

- ・**農福連携を行う農業経営体等**の収益力強化等の**経営発展を目指す取組の推進**
- ・農福連携の特色を生かした**6次産業化の推進** ・障害者就労施設等への**経営指導**
- ・農福連携での**GAPの実施**の推進

3 取組の輪の拡大

- ・各界関係者が参加する**コンソーシアム**の設置、優良事例の表彰・横展開
- ・**障害者優先調達推進法の推進**とともに、**関係団体等による農福連携の横展開**等の推進への期待

III **農福**連携の広がりの推進

「農」と「福」のそれぞれの広がりを推進し、農福連携等を地域づくりのキーワードに据え、**地域共生社会の実現**へ

1 「農」の広がりへの支援

林業及び水産業において、特殊な環境での作業もあることにも留意しつつ、障害特性等に応じた、マッチング、研修の促進、経営発展を目指す取組の推進、林・水産業等向け**障害者就労の付随事業**の創設

2 「福」の広がりへの支援

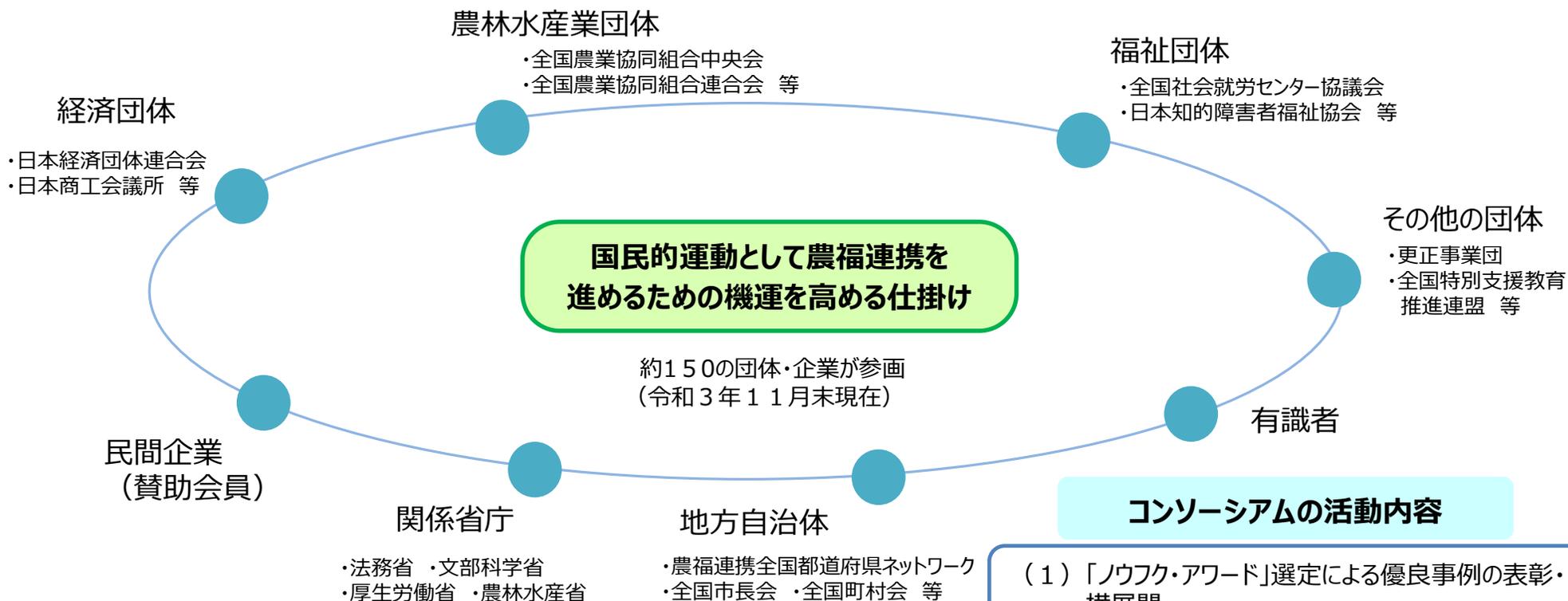
高齢者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある者等の働きづらさや生きづらさを感じている者の**就労・社会参画の機会の確保**や、**犯罪や非行をした者**の立ち直りに向けた取組の推進

2. ノウフクのこれまでの歩み

(4) 農福連携等応援コンソーシアムの設立

- 国、地方公共団体、関係団体等はもとより、経済界や消費者、更には学識経験者等の様々な関係者を巻き込んだ国民的運動として農福連携等を展開していくため、令和2年3月、各界の関係者が参加し、農福連携等を応援するコンソーシアムを設立。

農福連携等応援コンソーシアムの構成



農業と福祉がつながって、日本を元気に!

ノウフク

3. 「福」の事情

(1) 障害者を取り巻く状況

- 身体障害、知的障害、精神障害の3区分での障害者数は、約965万人であり、国民のおよそ7.8%が何らかの障害を抱えている。このうち、民間企業※及び公的機関で雇用されているのは約66万人と障害者全体の6.8%。
- また、一般就労に向けた訓練を行う就労系障害福祉サービスを利用している障害者は約34万人であるが、このうち約8割がサービスを提供する事業所と雇用契約を締結しない就労継続支援B型事業所の利用者であり、平均月額工賃は10年前と比較して上昇しているものの、16,369円(令和元年度)と低い状況にある。

※: 従業員45.5人以上の民間企業

3区分による障害者数(概数)

	障害者数 (括弧内は総人口に占める割合)
身体障害	436万人(3.5%)
知的障害	109万4千人(0.9%)
精神障害	419万3千人(3.4%)
合計	964万7千人(7.8%)

(注)18歳以上65歳未満の身体、知的障害者数は約159万人、25歳以上65歳以上の精神障害者数は206万人

出典: 内閣府「令和3年度: 障害者白書」

民間企業及び公的機関の障害者雇用数

	障害者雇用数 (括弧内は障害者全体に占める割合)
民間企業(45.5人以上の企業)	578,292.0人(6.0%)
国、都道府県等の公的機関	77,175.0人(0.8%)
合計	655,467.0人(6.8%)

出典: 厚生労働省「障害者雇用状況の集計結果」(令和2年)

就労継続支援B型事業所の平均工賃

	H21年度	R元年度
平均工賃(円/月)	12,695	16,369

出典: 厚生労働省「就労継続支援B型事業所の工賃調査」(令和元年度)

就労系障害者福祉サービス利用者(概数)

	利用者数
就労継続支援A型	7万2千人(21.1%)
就労継続支援B型	26万9千人(78.9%)
合計	34万1千人(100%)

※障害者就労継続支援A・B型事業所: 障害者に対し、就労の場の提供、就労に必要な知識及び能力の向上の訓練等を行う事業所。A型事業所は雇用契約に基づき最低賃金が保障されるが、B型事業所は雇用契約を結ばず、作業分を工賃として支払われる。

出典: 厚生労働省「障害者の就労支援対策の状況」(令和2年)

5. ノウフクの様々な取組の形

- 農福連携は、農業経営体による障害者の雇用、障害者就労施設による農業参入や作業請負など、近年、様々な形で取組が見られている。
- 自らの経営の中で、生産行程や作業体系の見直しを行い、生産の拡大など農業経営の発展につながっている事例も。

農業経営体が障害者を雇用 京丸園(株) (静岡県)

- 平成8年から毎年1名以上の障害者を新規雇用。従業員100名中、障害者は25名。
- 障害者視点で農作業の体制を整備。作業効率化が進み、経営規模と生産量が拡大。
- 障害者雇用数に比例し売上増加 (6.2倍に拡大 (H9→H30))。



器具を工夫した定植作業



個人の目標を定め作業を実施

障害者就労施設が農業参入 (株)九神ファームめむろ (北海道)

- 地域における障害者活躍の場として設立。平成25年度から障害者約20名が、野菜生産や一次加工を実施。
- 利用者から支援スタッフへキャリアアップ実現。
- 平均賃金は北海道平均の約1.6倍と高水準 (H30)。



野菜の加工処理



地域食材を
レストランで提供

J Aが核となるマッチング J A松本ハイランド (長野県)

- 障害者就労施設による農作業請負のマッチングを、J Aが核となって実施。
- 農家32戸が受け入れ、障害者就労施設11事業所の延べ1,161人が375回の農作業に従事 (R元年度)。



作業内容の説明

企業が障害者雇用と農業参入 ハートランド(株) (大阪府)

- コクヨ(株)が子会社で障害者7名を雇用し、葉菜類を栽培。
- 特性を的確に見極めることで播種等で作業効率を向上。
- 障害者就労施設からも年間延べ約6千人の障害者を受け入れ。



サラダほうれん草を栽培

6. 農福連携の優良事例 (1)

「ノウフク・アワード2020」優秀賞表彰16団体

詳しい取組概要はこちら「QRコード」



No.11 鳥取県 米子市
株式会社シルクファーム
・大規模なスマート農業システムを導入し就労環境等を整備
・ノウフクスーパーを活用するなど販売就労の機会を創出

No.12 島根県 出雲市
社会福祉法人喜和会 障害者支援施設太陽の里
・農地の集約等により規模を拡大し産地の維持発展に貢献
・「せわやき隊」と称し農業以外においても地域に貢献

No.13 香川県 高松市
特定非営利活動法人香川県社会就労センター協議会
・協議会が共同受注窓口となりマッチングさせる代表的な事例

No.14 長崎県 雲仙市
社会福祉法人南高愛隣会
・多様な者を受け入れ障害者等の社会参画の実現に貢献
・「生き甲斐」をキーワードとした双方向性の関係を構築

No.15 大分県 大分市
全国農業協同組合連合会大分県本部
・JAが共同受注窓口となりマッチングさせる代表的な事例
・子ども支援ネットとも連携し生活困窮者等を積極的に支援

No.16 鹿児島県 南大隅町
社会福祉法人白鳩会 花の木農場
・「来るもの拒まず」で多様な者を受け入れ就労の場を提供
・大規模な農地で広域に事業を展開し様々な雇用機会を創出

No.04 新潟県 長岡市
認定・特定非営利活動法人UNE
・様々な取組を展開し中山間地域の維持・発展に貢献
・どぶろくなど付加価値のある商品づくりを推進

No.05 福井県 あわら市
特定非営利活動法人ピアファーム
・アジアGAPを取得し海外へも販路を拡大
・6次産業化、観光化に事業を拡大し地域活性化に貢献

No.08 京都府 京都市
特定非営利活動法人HEROES
・地ビールの原料生産から醸造・販売まで一体的に実施
・高付加価値商品の開発等により工賃向上を実現

No.09 京都府 京田辺市
社会福祉法人 さんさん山城
・地域特産・地産地消・6次産業・地域活性化の取組を推進
・ノウフクJASと京野菜の普及啓発、地産地消に貢献

No.10 奈良県 奈良市
社会福祉法人青葉仁会 あおはにファーム
・中山間地域農業の維持・発展に貢献
・マルシェカフェなど多様な場所を提供し地域活性化に貢献

No.01 宮城県 松島町
一般社団法人松島のかぜ
・東日本大震災の復興と地域活性化に貢献
・農業（米、野菜）水産業（牡蠣養殖）の複合的な取組

No.02 福島県 泉崎村
社会福祉法人こころん
・多様な活動により地域農畜産業の維持・発展に貢献
・畜産、青果物のJ-GAPを取得し安心安全な食材を提供

No.03 埼玉県 熊谷市
埼玉福興株式会社
・ソーシャルファームを理念に誰もが働ける仕組みを構築
・障害者施設同士、企業や地域農家等との連携

No.06 長野県 松本市
松本ハイランド農業協同組合
・JAが共同受注窓口となりマッチングさせる代表的な事例
・県内JAの先駆的な取組となり農福連携の推進に貢献

No.07 長野県 松川町
株式会社ウィズファーム
・ノウフクJAS第1号認証者として積極的に販路拡大を推進
・高齢化等による耕作放棄地の発生抑制に貢献





○ 昭和47年の設立以来、現在は約130名の知的障害者を中心とした施設利用者が20種類以上の農産物の生産、養豚等の畜産から解体・食肉加工、直売所(兼)レストランの接客に至る様々な作業に従事し、安定した高賃金を実現

基本情報

- 所在地：鹿児島県南大隅町
- 活動地域：中間農業地域
- 団体名：社会福祉法人白鳩会 花の木農場
- 選定表彰：
 - ・ H27 ディスカバー農山漁村の宝 第2回 全国選定（主催：農林水産省）
 - ・ H29 南日本文化賞（主催：南日本新聞社）
 - ・ H29 瑞宝双光章（中村隆重）（秋の勲章） etc.
- 主力商品：茶、にんにくをはじめ20種類以上の生鮮野菜、精肉・食肉加工品、総菜、パン etc.

取組の概要

- 20種類以上の農産物を栽培生産し障害者等の通年作業を確保。また、生産牛や養豚の畜産も行い、解体精肉、食肉加工品は併設した直売所(兼)レストランで販売・提供。
- 法人内230名のうち、農作業に従事する利用者は130名(R元)。乗用摘採機や管理機等の操作技術を持った障害者も多数存在。
- 矯正施設出所者及び少年院出院者も在籍し、過去の受入や退所者を含めると30名以上の受入実績。近年は法務省及び矯正施設等とともに矯正と農業・福祉が抱える課題（ギャップ）の解消のために連携を強化。



茶の収穫、機械操縦は障害者

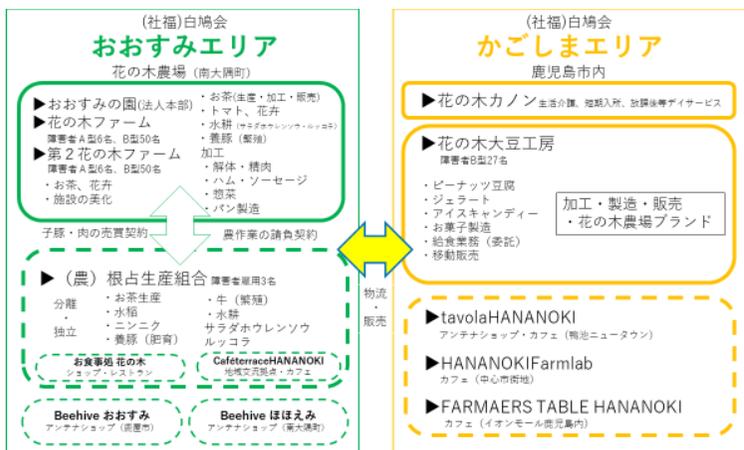


にんにく皮むき作業の様子



加工場での作業

体制図



取組の成果

- 利用者にはA型平均9.6万円/月、B型平均2.1万円/月と県内平均を上回る賃金を実現(R元)。
- 地域の農地を引き受け45haにまで拡大。うち15.6haは耕作放棄地を解消し地域農業の維持にも貢献。
- 茶事業では有機JASやASIAGAPの認証も取得し、障害者とともに持続可能な農業にも挑戦。農場内に開設した直売所兼レストランは地域住民と障害者の交流拠点機能も担っている。

所在地 ▶ 鹿児島県肝属郡南大隅町根占川北9466-8

連絡先 ▶ TEL : 0994-27-4737 FAX : 0994-27-4744 E-mail : jusan@hananokifarm.jp

ウェブサイト ▶ <http://shirahatokai.jp>



○ 農作業の人手不足を解消するため、平成30年度から、「マッチング事業」を開始。作業内容をメニュー化して作業料を明確にすることで、農家と障害福祉サービス事業所の双方が取り組みやすい仕組みを構築。

基本情報

- 所在地：長野県松本市
- 活動地域：都市的地域
- 団体名：松本ハイランド農業協同組合
- 主力商品：加工用トマトの収穫作業など
農家と福祉事業所をマッチング



トマトジュースやケチャップの材料となる加工用トマト

取組の概要

- 農家が、依頼したい作業内容をJAに申し込み、その情報を障害福祉サービス事業所（主に就労継続支援B型事業所）に提供、請負を申し出た事業所の中から、JA職員がマッチングし、農家と事業所が直接、請負を締結。
- 農家と事業所の双方が利用しやすいよう、委託作業をあらかじめ作業内容・作業量に応じてメニュー化し単価を設定、作業料を明確化。
- 作業メニューの単価等については、毎年、事業所や県の担当者などの関係者を集めた会議を開催し、内容を改訂。
- JAの農産物直売所において「農福マルシェ」を開催し、農家だけではなく地域住民や観光客へ農福連携をPR。



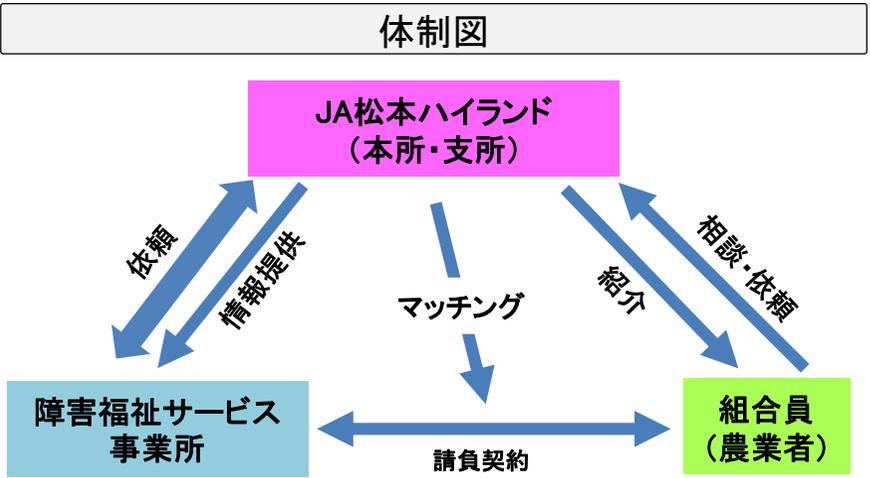
加工用トマトの収穫作業



トマト収穫作業の福祉事業所向け事前説明会



農福マルシェ



取組の成果

- 農家の長時間労働の解消や、スポット的な作業についても労働力の確保が容易になり、生産面積の維持・拡大、荒廃農地の発生防止に貢献。
- 農福連携による請負作業の増加で、障害福祉サービス事業所の工賃が向上。
- 農家と障害者、地域住民等との交流により地域の支え合い意識が成熟。

所在地 ▶ 長野県松本市南松本1-2-16
 連絡先 ▶ TEL : 0263-29-0394 FAX : 0263-27-4880
 E-mail : nokikaku@mhl.nn-ja.or.jp
 ウェブサイト ▶ <https://www.ja-m.iijan.or.jp/>

No. 4 静岡県 浜松市

京丸園株式会社

- ・障害者と健常者の垣根がないユニバーサル農業の取組
- ・農作業や施設環境は障害者目線で工夫

グランプリ

No. 7 京都府 京田辺市

社会福祉法人 さんさん山城

- ・地域特産・地産地消・6次産業・地域活性化の取組を推進
- ・ノウフクJASと京野菜の普及啓発、地産地消に貢献

グランプリ

No. 2 群馬県 前橋市

社会福祉法人 ゆずりは会 菜の花

- ・平均工賃が全国平均の3倍とモチベーション維持に寄与
- ・利用者にあった作物を栽培し年間就労の維持に貢献

審査員特別賞 (人を耕す)

No. 5 新潟県 佐渡市

特定非営利活動法人 立野福祉会 障がい者就労トレーニングファーム チャレンジド立野

- ・農福連携が地域活性化や地域農業の維持に貢献

審査員特別賞 (地域を耕す)

No.10 徳島県 徳島市

株式会社 菜々屋

- ・JAと連携し障害者と親和性の高い有機農業を推進
- ・農作業受託を行い地域の農業労働力に貢献

審査員特別賞 (未来を耕す)

No.11 高知県 安芸市

安芸市農福連携研究会

- ・生きづらさを抱えた者への理解が広がり地域活性化に貢献
- ・農福現場の一つ一つの課題解決への取組の推進

審査員特別賞

No. 8 大阪府 和泉市

株式会社 いずみエコロジーファーム

- ・ノウフクJAS取得し消費者に対してノウフクの普及に尽力
- ・販路・雇用・賃金の安定が地域農業の維持に貢献

No. 9 和歌山県 紀の川市

社会福祉法人 一妻会 ソーシャルファーム もぎたて

- ・付加価値のある商品作り等中山間地域の維持・発展に貢献

No.12 宮崎県 宮崎市

一般社団法人 STEPUP CoCoRo事業所

- ・矯正者も受け入れ、再犯防止や更正支援に貢献
- ・農福連携が地域の中心的担い手の育成に貢献

No.13 鹿児島県 龍郷町

株式会社 リーフエッチ あまみん

- ・障害者への個別支援及びQOLの向上への取組
- ・自治体・商工会等と連携し販路の開拓や事業創出に貢献

No. 1 青森県 おいらせ町

社会福祉法人 誠友会 工房あぐりの里

- ・農福連携の取組が地域農業の維持・交流人口の増加に貢献
- ・企業・農業経営体・社会福祉法人等、多様な連携

No. 3 千葉県 木更津市

特定非営利活動法人 一粒舎

- ・農地の受け手となり荒廃農地の発生抑制に貢献
- ・観光農園と施設園芸により高工賃の実現

No. 6 三重県 鈴鹿市

株式会社 イシイナーセリー

- ・障害者雇用を通じて地域の植木産業を支える取組を推進
- ・高賃金の実現と一般就労へのつながりに貢献



フレッシュ賞

- No.14 新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク (東京都新宿区)
- No.15 特定非営利活動法人 わっこ谷の山福農林舎 (長野県東筑摩郡筑北村)
- No.16 遊士屋株式会社 (三重県伊賀市)
- No.17 CuRA! (新潟県新潟市)
- No.18 株式会社 JAぎふ はっぴいまるけ (岐阜県岐阜市)
- No.19 うりずんファーム ウィルチャーファーム (沖縄県沖縄市)

チャレンジ賞

- No.20 社会福祉法人 青森県すこやか福祉事業団 (青森県平内町)
- No.21 福島県立大笹生支援学校 (福島県福島市)
- No.22 帝人ソレイユ株式会社 我孫子農場 ポレポレファーム (千葉県我孫子市)
- No.23 社会福祉法人 進和学園 しんわろネッサンス (神奈川県平塚市)
- No.24 社会医療法人 正光会 さんさん牧場 (島根県益田市)
- No.25 社会福祉法人 太陽福祉会 (和歌山県御坊市)

9. ノウフクと新しい経済社会

1、私とノウフクの出会い

「職業人生と家族は別」の不自然を自覚、他人事と自分事、こころみ学園、村木厚子さん、「獄窓記」

2、SDGsという美しいスローガンと現実の経済社会の大きなギャップ

分断は強まり格差は縮まらないという現実、国際政治経済環境の悪化、ロシアのウクライナ軍事侵攻

3、打開に向けた新たな動き

COP26合意で見せた「危機バネ」という求心力、企業の行動原理の変化、アトミックな社会か共生社会か

4、ノウフクの可能性

縦割りの罫にハマってもがく分野別課題の解決の糸口（農業、福祉、雇用、教育、地域等）、一種の触媒、日本の弱さを克服するゲームチェンジャー、中国への対応

5、パラリンピックを観て思ったこと

今回と前回の東京オリパラの比較、パラアスリートを支える装具の性能の高さ、種類の多様さに驚き、障害は「個性」、AIやロボットも使い方次第でノウフクの手助けに

6、ノウフクは新たな経済社会や農業づくりのフロントランナーに

夢は必ず叶う、コロナを乗り越えて頑張ろう